ウイリアム・ハーシェル博物館

木村精二*・斉田 博*

本年4月，イギリスでは天王星発見200年を記念する各種の行事が催された．私達はそれに参加するため4月12日に発ち，ハーシェルに関する資料調査を行って29日に帰国した．私達は，天王星発見の日，3月13日に開館されたウイリアム・ハーシェル博物館を訪れた最初の日本人，またハーシェル協会会員として，その状況を報告しておこうと思う．

イギリス天文週間

記念行事が企画されつつあることを知ったのは昨年5月であり，8月から各種の機関と連絡をとりはじめたが，出発までに知り得たのは次のようなものであった．

1. 4月20～26日をイギリス天文週間とする．
2. これは天文学普及活動の推進を目的とし，講演会その他の集会，天文施設の公開，博物館での特別展示などが集中的に行われる．
3. 実行委員長にグリニジ天文台長 F. G. スミスが就任．
4. 主催団体：王立天文学会（RAS），イギリス天文同好会（BAA），ジュニア天文同好会（JAS）
5. 協力機関：グリニジ天文台，海事博物館，エジンバラ王立天文台，マンチェスター大学，ケンブリッジ大学，北ロンドン工科大学，ロンドン・プラネタリウム．

さらに，国際天文学連合（IAU）と RAS の共催により，惑星に関する特別シンポジウムが，4月14日から16日まで，バース大学で開催されることも知った．私達はそれにも参加することにした．

IAU，RAS シンポジウム

私達は両団体の会員でなく，正式参加は望めないのだが，BAA の特別なはからいにより，さいわいにもオブザーバーとして出席を許された．その状況を詳細に述べることは本稿の主旨ではないし，いずれ IAU から公表されると思われるので，天王星発見史についての初日の演題のみを記すにとどめる．

- バースにおける文芸と哲学（R. ポーター）
- ハーシェルの科学活動（J. ベネット）
- ハーシェルと天界の構造（M. ホスキン）
- ハーシェル以前の天王星の観測（F. フォーブス）
- 天王星発見が与えた衝撃（R. スミス）

* 日本天文研究会 Seiji Kimura, Hitoshi Saida: The William Hershell Museum.

写真 1 ハーシェル博物館（中央）

2日目以降は，天王星の起原，構造，衛星，今後の観測などが中心課題になったはずだが，日程の都合で私達は初日だけ出席した．

BAA，JAS の記念講演会

4月25日，グリニジで記念講演会が開催され，降りしきる雨にもかかわらず，300人をこえるアマチュアが詰めかけた（入場料 75 ペンス）．演題は次のとおりである．

- 天王星と新しい天文学（M. ホスキン）
- 外惑星について（G. ハント）
- ラ・パルマ天文台の新望遠鏡――ウイリアム・ハーシェル望遠鏡――について（F. スミス）
- 宇宙空間からの天文観測（R. ボイド）
- 惑星と観測者（P. ムーア）

旧グリニジ天文台の特別展示

ダイソン・ギャラリーにあったハーシェル展示場が拡充され，20フィート鏡筒をはじめ，ハーシェルが使った各種の器械，部品，その他の資料が豊富に並べられていた．これは8月まで展示されるという．またひごろ見せていない 28 インチ屈折望遠鏡も一般に公開された．併設のプラネタリウムも「天王星の発見」というテーマで

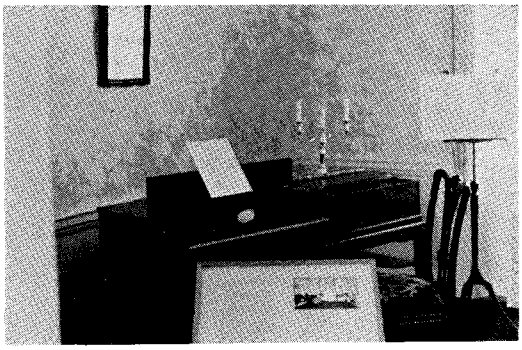

写真 2　ハーシェルの使ったオルガン

一日4回投影し，その庭には，現存する 40 フィート望遠鏡の端末部（10 フィート）が展示されていた．

記念演奏会

ハーシェルは生涯に，24曲におよぶ交響曲を含む数百の楽曲を書いている．現存する楽譜で最も古いものは1759年5月のオーボエ協奏曲である．彼の作品は，いずれも後期バロックから新古典派への転換時代に生まれたもので，そのうちの3曲が，4月25日，海軍大学チャペルで演奏され喝采を博した．彼は1782年（44歳）に音楽をすてたが，もしそれをつづけていたら，ヘンデルとならぶ大作曲家として，音楽史に名をとどめたであろう．当夜の演奏曲は「交響曲5番ヘ短調」「オーボエ協奏曲変ホ長調」「オルガンのためのソナタ」であった．

ハーシェルのバースでの生活

ハーシェル博物館は，ロンドンの西方約 170 km の，人口約 10 万の小都市バースにある．この町は，AD 60 年頃ローマ帝国が征服したとき，温泉を利用して大規模なローマ風呂を作ってから，湯治場，行楽地として栄えたところである．とくに 18 世紀に急成長をとげ，上流階級の社交場，音楽の都となった．いまでもジョージ王朝やビクトリア王朝時代の姿をとどめる美しい町であり，各種の世界的な博物館をもつ文化都市でもある．

ハーシェルがこの町にやって来たのは，1766年12月9日，28歳のときであった．すでに貧しい生活から脱しはじめていたが，バースでは，教会でのオルガン演奏のほかに，オーケストラを主宰し，音楽教師としても活躍したため，彼が天王星を発見した頃には，年収は400ポンドをこえていた．彼が国王づきの天文学者として支給された年金は200ポンドである．したがって，ハーシェルは減収を承知のうえで天文の世界へとびこんだことになる．「オルガンひき」「巡回楽師」としか紹介されなかったハーシェルの暗いイメージは，とうぜん捨てねばならない．

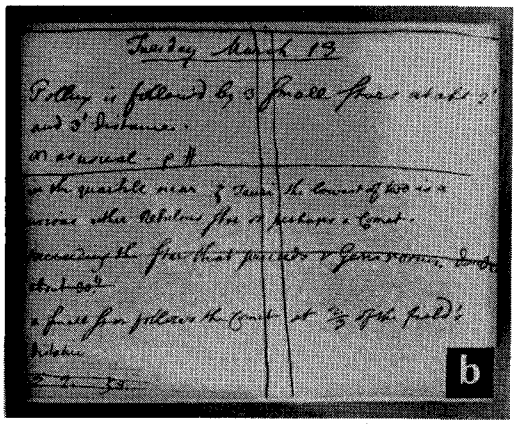

写真 3　天王星発見の日のノート

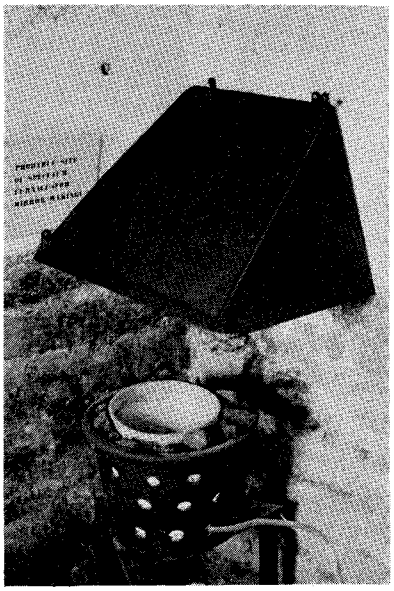

写真 4　鏡材をとかした炉

彼は北イングランドで軍楽隊に入った頃，スミスの「和声学」を愛読した．スミスはケンブリッジの天文学教授で「光学」の著者でもあった．ハーシェルはそれをも読み，望遠鏡製作と観測をはじめる気になった．それを実行に移したのは 1773 年，バースに移ってから6年目のことである．

彼はそれ以来，音楽よりも鏡製作に力を入れるようになり，当然のことながら，音楽活動がおろそかになった．それを補うため，弟のアレグザンダーと，さらに1772年12月8日に妹カロラインをハノーバーから呼び寄せた．アレグザンダーはバイオリン奏者，カロラインはソプラノ歌手として舞台に立ったが，2人ともハーシェルの鏡製作の有能な助手となってしまった．

ハーシェルは，鏡製作と観測に都合のよい場所を求めて，バースのなかを転々としたが，1781年3月はじめ，

ニュー・キング街 19 番に落着いた．そして引越し早々に天王星を発見したのである．余談だが，カロラインはその場に居あわせていない．引越準備のため前の家にとどまっていたからである．ハーシェル博物館は，このニュー・キング街 19 番に現存する家に設けられたのであった．

ハーシェル博物館

博物館はバース駅から徒歩 20 分ほどのところにある．東西に走る道をはさんで，南側に 1-34 番，北側に 35-57 番の，それぞれ 1 棟の長屋が建っている．19 番とは南棟の 19 番目ということを示す．長屋といっても，地下 1 階，地上 4 階の 5 階建てで，一部は各階 2 室，計 10 室をもつ堂々たるものだが，バースでは粗末な家といえる．斜面を切りひらいて建てたため，表口は 1 階にあるが，裏口は地下室にあり，地下室から裏庭に突き出すように鏡製作室が作られている．天王星を発見した場所は裏庭で，いまはその先に自動車修理工場が建っているが，当時は視界をさえぎるもののない絶好の観測地であったと思われる．

1977 年に設立されたハーシェル協会が，この家を買取った時は，住む人もなく荒廃していたが，協会の手により，200 年前の姿に修復され，壁紙も当時をしのばせるものに改められた．そして 1 階は天文展示室として，天王星を発見した 7 フィート望遠鏡の現寸模型をはじめ，ハーシェルが使ったり作ったりした器具，鏡，レンズ，赤外線研究器具，文書，書物などが並べられた．2 階は音楽展示室と居間で，オルガンをはじめ，彼が使った楽器，楽譜，当時の調度品が置かれている．地下室には，ハーシェルの食堂，調理場が再現され，鏡製作室には，鏡材調合具，炉，旋盤，造園具が，当時のままに配置された．見るからに粗末なもので，ここで 36 インチ鏡の製作と取組んだとは，とても思われないほどである．しかし鏡材溶解中の大事故（1781 年 8 月 11 日）で，一家が九死に一生を得た状況まで展示してほしいと願うのは無理というものだろう．

ハーシェルが使用した器械器具，文書，手紙，衣服などの大半は，1958 年に競売にかけられ，いまでは各地に分散されているという．そのため，この博物館の展示品は，まだ少ない．いずれ協会の努力によって，その数は増すであろうし，ぜひそう願いたいものである．

博物館は水，木曜日の 2 時から 5 時まで公開され，入場料は 25 ペンスである．

博物館を運営するハーシェル協会の会長は P. ムーアであり，博物館の管理者は，自費でハーシェルの旧居を買取ったヒリアード夫妻である．協会の会費は年 2 ポンド．協会の住所は The William Herschel Society; 290 High Street, Batheaston, BATH, BA1 7RA, ENGLAND である．一人でも多く支援してほしいと協会では言っている．

今回の旅行で，はじめて聞くエピソードを取材したし，わが国に紹介されているハーシェルの伝記に，いかに誤りが多いかも知らされた．これらについては，いずれ別の機会に記したいと思う．

学会だより

秋季年会の開催と講演の申込みについて

今秋の年会は京都市の京大会館で，10 月 13 日（火）～15 日（木）の 3 日間開催の予定です．秋季年会のプログラムは 9 月 20 日発行の天文月報 10 月号に掲載されますので，御留意下さい．

講演申込みは「〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 東京天文台内日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱筆の上 **8 月 17 日（月）**までに必着するよう**本年度改定**した申込用紙を用いてお送り下さい．

申込み用紙は，支部理事にまとめて送ってありますので希望者は返信料 60 円切手を同封の上，下記の理事へお申出下さい．

北海道：兼古　昇　〒060 札幌市北十条西八 5 丁目
北海道大学物理学教室

水　沢：真鍋盛二　〒023 水沢市星が丘町 2-12
緯度観測所

仙　台：田村真一　〒980 仙台市荒巻字青葉
東北大学理学部天文学教室

東　京：日江井栄二郎　〒181 三鷹市大沢 2-21-1
東京天文台

名古屋：長瀬文昭　〒464 名古屋市千種区不老町
名古屋大学理学部物理学教室

京　都：石沢俊亮　〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部宇宙物理学教室

中国・四国：内海和彦　〒730 広島市東千田 1-1-39
広島大学総合科学部

九　州：上西啓祐　〒860 熊本市黒髪 2-39-1
熊本大学理学部物理学教室

◇講演申込者で，年会出席旅費の補助を希望される方は，支部理事を通じて，**8 月 17 日（月）**までに「東京天文台内　日本天文学会理事長」あてに申込んで下さい．但し申込みのできる人は，7 月末までに **56 年度会費納入ずみの人**で，原則として，連名の場合でもスピーカーであり，